

製薬協における創薬イノベーション創出に向けた取組み
Efforts to create “Drug Discovery Innovation”
in Japan Pharmaceutical Manufacturers Association

新留 徹広
Tetsuhiro Niidome

日本製薬工業協会 産業政策委員会 イノベーション推進部会長
エーザイ株式会社
Pharmaceutical Industrial Policy Committee /Eisai Co., Ltd.

日本製薬工業協会（製薬協）は、研究開発志向型の製薬企業（73社）よりなる業界団体であり、革新的で有用性の高い医薬品の開発と製薬産業の健全な発展を通じて、日本および世界の人々の健康と医療の向上への貢献を目指しています。

新薬が患者さんのもとへ届くまでには、病気の発症や進行に関連する新規物質の発見から基礎研究、非臨床試験、臨床試験、承認審査など数多くの段階があり、9-16年を要するといわれています。そして、新薬に至る確率は約2万から3万分の1です。このように成功確率が低く、販売までに長い期間を要する新薬の開発を継続的に実現するためには、絶え間なくイノベーションを創出していく必要があります。

新型コロナウイルス感染症下での日常生活において、スマートフォンやコンピューター、AI（人工知能）などのデジタル化や技術革新に伴うデジタルトランスフォーメーション（DX）は急速に社会に広がり、我々の生活を一変させ、医療の分野でも、DXによりオンライン診療やオンライン服薬指導などが可能になりつつあります。我々製薬業界も、ビッグデータやデジタル技術を活用して、AIを活用した創薬研究の効率化、ゲノム情報等を活用した個別化医療の実現、デジタルセラピューティクスの開発等に取り組んでおります。

製薬協では、2016年に「製薬協 産業ビジョン2025」を策定し、創薬イノベーションを世界中の人々に届けるという将来像を描き、それを実現するための方向性を示してきました。また、本年5月にはCOVID-19のパンデミックなど昨今の急速な環境変化を受けて、「製薬協 産業ビジョン2025 追補版」を策定しました。「製薬協 産業ビジョン2025」の実現に向け、2019年には「製薬協 政策提言2019」を策定し、製薬業界として、これまでの個社ベースでの取組みを超えた積極的な協業を推進し、且つ政府やアカデミアと協力して、創薬イノベーションを継続的に創出するための方策を示しました。また、今年、DX等の環境変化を踏まえて「製薬協 政策提言2021」を策定しました。

当日は、「製薬協 政策提言2021」を中心に、「製薬協における創薬イノベーション創出に向けた取組み」についてご紹介したい。